

E u c a l e a v e s ゆ〜かり〜ぶす

究極の選択(?) & 世紀のアウトドア・イベント:
思いでいっぱい第4号 22. Oct. 2012

文系・理系選択講演会

9月15日の土曜日9時より武陽ゆ〜かり館にてH.T.さんを講師に迎え、67回生の諸君の文理選択に向けての講演会が開催されました。当日は59名の参加者があり、「将来を見据えての進路選択〜「つくりたい未来」に向けて〜」について考えました。

進路講演会を聴いて

H.I.

今回の講演会に参加して、文系、理系のどちらに進むか決めるにあたっての考え方を学びました。

最初、この講演会を聞く前は、数学と理科が苦手だから文系かなとか思っていました。でも、この講演会で10年後の世界や日本の状況を考え話し合ったり、話を聞いたりしているうちに、将来就きたい仕事を決めてから、文系か理系かを決めた方がいいと知ることができました。また、自分の将来就きたい職業について考える機会ができて良かったと思います。もう少し、じっくり自分の未来について考えてみたいと思います。

この他にも、10年後には必ず英語が必要になってくると教えてもらいました。私は元々、英語を勉強したいと思っていたので、さらに頑張ろうと思いました。

最後に受験についても教えてもらいました。約60パーセントの問題が基礎的な問題らしいです。まだ1年生ですが、今からしっかり勉強しておかないといけないんだと改めて思いました。私は勉強のサボり癖があるので、サボらず頑張らないといけないなと思いました。

今回の講演会はとても貴重な経験になりました。これから待っている文理選択に生かしていきたいです。

「将来後悔しないために、今、私がすべきこと」

M.F.

私は今まで、文系と理系をどのように決めたらいいのかということをよく知らなかったのですが、とても迷っていました。今回の講演会のお話の中で、

数学が嫌いだから理系はやめておこうとか、英語が嫌いだから文系はやめておこうとかいう考えで、理系や文系を選択したら、後で後悔することになるというお話がありました。また、大学で学ぶことは、就職に大きく関わってくるということだったので、安易な気持ちで進路を決めてはいけなと、改めて気づきました。今の私はまだ、はっきりとした将来の夢を持っていないので、今のうちに、沢山のことを調べ、学び、自己分析をして、将来後悔しないための選択をしていこうと思います。

また、志望大学を決めるにあたり、様々な角度で調べなくてはならないということを知りました。今までは、偏差値や、大学の特色などだけで決めればよいと思っていました。同じ学部でも、どの大学を選ぶか、どの教授の下で学ぶかによって、研究の内容も、研究費の補助も変わってくるということなので、大学選びを慎重にしなければいけないということが分かりました。

これから、自分が目指す大学へ行くためには、大学のことをよく知ることはもちろんのこと、日頃の授業をしっかりと受けて、基礎力をつけること。また、家庭学習の時間を確保し、目標に向かって、頑張ることが必要だと改めて思いました。

一步前進できたかな？

M.O.

文理選択は前向きに考えるもの。私はまだ文系に進むか、理系に進むか、迷っています。私の中で文理選択はぼやぼやした霧のようでした。ですが文理選択は、これからの人生の方向性を決める重要なもの。なのに高校に入学して一年も経たないうちに、将来の夢はまだ確定していない、そんな私がどうやって選択して良いのか、本当に分かりませんでした。今、興味

があるものがあっても、それは小さい小さい世界の中のもので、これから、色々な経験をしていくうちにもっと興味のあるものに出会うかもしれない。そう考えると、まだ自分が就きたい職業が決まっていない人は今興味があるもので考えればよいと言われることに、凄く戸惑いを感じていました。そんなときT先生の「文理選択は前向きに、そしてわくわくしながら考える」という言葉が私の中を突き抜けるようになってきました。今までの私を振り返ると、文理選択について考えてはいたものの、それは決して前向きではありませんでした。T先生の言葉で、とても楽になりました。それから、私が疑問に思っていること、不安に思っていること、考え、解決法をどんどん話して下さいました。この講演会に参加して、目には見えないけれど、確実に大きく一步前進できたと思います。

野外活動 (10/3~5) 蒜山キャンプ&大山登山

「夢のようだった三日間」

K.M.

「野外活動とはなんぞや!!」の解答例

〈野外活動委員長〉K.M.

2泊3日の野外活動、お疲れ様でした。一日目は雨天の影響で一部行事が変更となってしまいましたが、二日目は天候に恵まれ、登山では無事山頂の秋空を仰ぐことができました。

以前、僕は野外活動とはなんぞや!!という問いをしおりの冒頭で投げかけました。今回は、その解答例を僕なりに考えてみたので、これを野外活動委員長としての最後の挨拶とさせていただきます。

『野外活動中は皆が同じものに所属する』

例えば、あなたが朝家族と食卓を囲んでいるとき、あなたは家族に所属しています。しかし、家を出て電車に乗れば、通勤客になります。学校に来れば生徒で、部活へ行けば部長あるいは部員としてそこに所属することになります。同じものに所属する人とは、関わりを持つきっかけが多くあり、決して他人ではありません。普段学校内で皆さんはクラスや部活といった限られた範囲で生活をしています。

ところが野外活動になると、同じドームの中で一本の綱を引いたり、体育館の中でスタンプを楽しんだり、67回生全員が同じ所属の中で生活していました。普段はあまり話さない人とも、活動を共にすることにより、親睦を深めることができたのではないかと思います。皆で同じことをする。これは学生の間には経験できないことです。それこそ、集団生活の良さであり、将来振り返ってみた時、それは必ず良き思い出になっているはずです。

だから、皆さんには野外活動が終わった後も、たくさんの人と触れ合うことができる機会を大切にしてほしいと思います。今ある多くの出会いと経験は、必ず将来の財産になります。これからも、日々の出会いを大切に過ごしてください。僕も今回皆さんの前に立って野外活動委員長をさせていただいたことを大切にしたいと思います。本当にありがとうございました。



一瞬で過ぎ去った三日間だった。そう思えるくらい中身が充実していてとても楽しいものだった。六十七回生のほとんどが「もう一度行きたい。」「最高の思い出になった。」そう感じているのではないだろうか。勿論自分もそう思っている。

今回、僕はこの野外活動の実行委員の一員として夏から準備を進めていた。僕は登山の企画担当だった。そして委員としても、参加者の一人としても、この大山登山は非常に思い出深いものとなった。まず僕は山頂行事の準備のために先頭で山を登り始めた。思っていたよりもしんどかったが、一番乗りに山頂に着いて下を見下ろしたときには雲が見え、疲労も消えたように思った。神様になったような気分だった。そして山頂で飴を配った。まさに飴と鞭である。多くの人に「ありがとう。」「やったー!」と言ってもらえて嬉しかった。下山後は登頂時とはまた別の達成感があった。

一緒に頑張ってきた野活実行委員の皆、クラスの皆、先生方、たくさんの人のおかげで野活を楽しむことができた。とても大切な思い出ができた。皆に感謝したい。本当にありがとう。

団体競技

T.N.

僕のいるクラス1年2組が、野外活動で一番と言っても過言でないほど盛り上がったのは「綱引き」でした。平成森のドームに向かうバスの中でドッジボールの話は出さず(僕が聞いてないだけかもしれないが...)綱引きの作戦をみんなで言い合い、最終的に「絶対負けんやんこれww」っていう作戦ができました。ドッジボールで負けた時から「絶対勝とうぜ!」みたいな雰囲気から感じ取れ、どのクラスよりも気合が入っていたと思います。クラス一丸となり、全力で戦い、そして.....ついに優勝することができました。

1年2組が優勝できたのは、力持ちがたくさんいたからではありません。どっちかというところ2組は文化部が多くて、他のクラスよりも力はありません。では、なぜ優勝できたかというところ.....いい作戦と団結力があったからです。いい作戦は体育会の教訓や個人が見つけた戦略からみんなで作り上げました。団結力は男女関係なく仲がとても良く、団結競技の方が向いている2組だからこそ大きな力となりました。それに加えて「勝ちたい!」っていう気持ちが一番強いクラスでもあったはずなんです。

今回の野外活動はただ楽しいだけの行事ではなく、クラスの絆がより深まったいい機会になったと思います。

「大山登山」

N.S.

野外活動 2 日目、いよいよ中国地方最高峰の大山に登る日がやってきました。私は期待と不安でいっぱいでした。その日は雨が降っていたので、正直観光に行くような軽い気分でした。でも今までで一番過酷で、山頂の体感温度が 0℃だと聞いたときは少し気持ちがひきしまりました。

そして 1 合目、2 合目、と順調に登っていきました。その頃はまだ会話もできるほど余裕があったと思います。しかし 5 合目になると一步一步が苦しくなり、立ち止まってしまいました。そんなとき周りの友達は私と一緒に足を止め、励ましてくれました。友達の暖かい言葉に後押しされ、私はもう一度がんばろうと思うことができました。ずっと手をつないで登ってくれた友達、すぐ後ろで支えてくれた友達もいました。何度も諦めそうになったけど、仲間の姿を見ると心の底から元気がわいてきました。そして山頂が見えたその時、言葉では言い表すことのできない気持ちでいっぱいになりました。本当に感動しました。下山中は友達が寝て滑ったり、笑っぱなしでした。登山中のしんどさが嘘みたいでした。

この登山で私は、友達の暖かさ、苦しくても諦めず頑張ることの大切さを知りました。この経験をこれからも生かしてこれからも頑張っていきたいと思います。

じょいふる

T.K.

待ちに待った 3 日間は夢のようで、あっという間に過ぎてしまいました。その中で記憶に深く残っているのは、スタンプです。天候のせいで、キャンプファイヤーが出来なかったのは心残りですが、明るい照明の下で、スタンプが出来たのはよかったのかもしれない。

僕のクラスは、じょいふるを披露しました。4 組は音コンや体育祭などいつも中途半端に終わっていましたが、今回のスタンプの練習は、変に気合が入っていました。例えば、普段おとなしい人がやたらと振り付けを覚えるのが早かったり、ちゃんと踊らなかったら、精神的にきついお仕置きがあったりなどいつもと違う 4 組でした。

また、振り付けが途中で変わっても、動揺することなく、再び振り付けを覚えるクラスメートの姿はととても頼もしかったです。僕は部活の公式戦が近かったので、あまり練習に行けませんでした。センターで躍らせてもらえました。本番は、トップバッターでしたが緊張することなく練習どおりに踊ることが出来たと思います。予想以上に会場が盛り上がり、手拍子もしてくれたので、とても嬉しかったです。優勝することは出来ませ

んでしたが、4 組の絆がより深くなったと思います。またスタンプをする機会があればいいなと思いました。

最後にこのような場を設けてくれた、野活委員の皆さん、先生方、宿泊施設の方々、ありがとうございました。

『We're All In This Together』

M.Y.

M.Y.

4 分という短い時間でどうやったら 5 組全員が輝けるかが、このスタンプを作るにあたって一番重視したところでした。私たちは、ハイスクールミュージカルの中の『We're All In This Together』～みんなスター!～という曲で躍ったのですが、タイトル通りに全員がスターになれるように、ダンスの得意、不得意や少ない練習時間の中でそれぞれがよりよい作品にしたいと思いながら、練習してきました。

忙しい部活動を抜けて練習に参加してくれたら、朝練のために朝早くにたくさんの人が集ってくれたり、みんなの協力しようとしてくれる気持ちが目に見えるほど、伝わってきていつも感謝の気持ちでいっぱいでした。それに何よりも「楽しい!」「いい感じ!」と言って笑顔で練習していたり、お互い教えあったり褒めあったりして、今までにないほどに団結していると感じることができる場面がいくつもありました。

それら全部は、みんなの前に立ってこのスタンプ作りを進めてきた私たちにとって何よりも嬉しいものでした。他のクラスの人たちに見せた本番はあっという間でしたが、そこにたどり着くまでにたくさんの輝きが見れました。結果的には、負けてしまったけれどひとりひとりがスターになれたはず。これからもそれぞれの個性を光らせて、最後まで全員が主役であるクラスにしたいです。

大山の頂をイタダキました!!

T.K.

10 月 4 日。とうとうこの日がやってきたのだ。そう、大山登山だった。僕は目の前にそびえてはいるが、曇っていたために山頂付近が見えていなかった大山を完全になめきっていた。「まあ、簡単に登れるわ」と思っていた僕は、山を登り始めた。階段ばかりの登山道で、最初は友達と登っていたが、6 合目付近で急に足が疲れてきた。そして、僕に追い打ちをかけるように足元が途端に悪くなり、滑りそうになった。そして僕は横に断崖絶壁の崖が、それもロープや手すりも備えられていない所に来た。しかし僕は高所恐怖症だった為、とても怖かった。まさに地獄だった。

しかし、無事に山頂へと辿り着いた。そして山頂からの景色は今までの疲れを忘れさせるくら

い素晴らしかった。そして山頂ではみんなでお昼ご飯を食べた。地上で食べる弁当よりも美味しく感じた。こうして僕はしっかりと大山の頂をイタダいたのである。

THE GOD OF CURRY

T.M.

私が野外活動の中で最も楽しかった行事は飯盒炊きです。

私の班には、カレーの神様と呼ばれる K.F.くんがいたので、総合優勝することができました。といっても、まきをくべていただけでした。私の班のカレーは、神様の汗と涙の結晶入っているのではじめから総合優勝は決まっていた。神様は結果を第一に考えるお方なので手段を選ばないのです。そのため、反則行為であるインドの兄弟からカレーのルーを直接輸入し、見事に美味しいカレーを完成させました。

途中では K.F.くんのミスによりトマト缶が開かなくなるというハプニングが起こって、普段温厚な A くんがぶちぎれるという予想外な事起こり、みんなの目が米のように小さく丸くなりました。しばらく時間が経ちようやく A くんが落ち着いたところで私はカレーのルーを入れようとしたところ、A くんはまだ早いと言われ止められました。私は7組の他の班がカレーのルーを鍋に入れるのを見て、自分も早く鍋にカレーのルーを入れた一い、ととてもうずうずしていました。カレーのルーを入れようとしても女子に止められ、また入れようとしても女子に止められようやく待ちに待ったカレーのルーを入れる時がきて、カレーのルーを入れようとしたとき、一瞬カレーのルーを落としそうになり、私はもうダメだなと思いました。

しかし、カレーの神様がそばにいたおかげかカレーのルーを落とさずにすみました。自分たちのつくった班のカレーもとてもおいしかったです。H くんが直接手で「あーん」してくれたカレーは実に美味しく特別な味でした。

野外活動を終えて

〈野外活動副委員長〉 M.H.

野外活動を終えて、私はまず「楽しかった！また行きたいな。」と思いました。

みなさんはどうでしたか？もし「楽しかった。」「もう一度行きたい。」とみなさんも思ってくれたなら、とても嬉しいです。

私が、今回の野外活動の中で特に印象に残った行事は、大山登山です。

大山登山は雨の影響で、登れない可能性もありました。登れることになったものの、雲だらけで、登るときは全く景色が見えませんでした。しかし、頂上と下山中は綺麗な景色が見れたので、嬉しかったです。

また、野外活動に行く前は、時間どおりに行程が進むのかとても不安でした。しかし、行ってみると時間の前には全員が揃っていて、とてもスムーズに行程が進みました。一度も先生が前に立つことなく、野外活動を終わることができたのは、みなさんの協力のおかげだと思います！

最後に、「楽しかった」と思える野外活動を作ってくれた野外活動実行委員 28 名、先生方、そして 67 回生のメンバー、本当にありがとうございました！！

☆☆☆☆表 彰 記 録 ☆☆☆☆☆

7/11 コーラス大会 学年予選

1位 2組 2位 7組 3位 1組

7/12 球技大会

・男子サッカー

1位 5組 2位 1組 3位 4組

・女子バスケットボール

1位 6A組 2位 3A組 3位 6B組

9/25 体育祭

・女子6×100mリレー

優勝 1年6組 3位 1年5組

10/3～5 野外活動（蒜山高原）

・スポーツ大会

ドッジボール優勝 3組

綱引き優勝 2組

・スタンプ優勝

6組

・飯盒炊き

総合優勝 7組

きれいで賞 1組

おいしかったで賞 6組

ユニーク賞 5組

今後の予定

- | | |
|-----------|-----------------|
| 10月24日(水) | 通学路清掃 |
| 29日(月) | 短縮授業→定期戦壮行会 |
| 31日(水) | 秋季定期戦【本校】 |
| 11月 3日(土) | 全国模試(～14時まで) |
| 6日(火) | オープンハイスクール(1日目) |
| 7日(水) | オープンハイスクール(2日目) |
| 16日(金) | 神大キャンパス・ドライブ |
| 23日(金) | 勤労感謝の日 |
| 24日(土) | 土曜教室⑥ |
| 12月 1日(土) | 学校説明会 |
| 6日(木) | 期末考査(～12日まで) |

編集後記

この2泊3日の最大の収穫は、蒜山高原休暇村の方と大山登山のガイドさんからそれぞれ〈外から見た“兵高生”の印象〉を教えてもらったことでした。今号は記事満載の為、1/2版タイトルとなりました。原稿送付メールアドレスは、以下のとおりです。

E-mail: hyogo@gmail.com